

平成27年第6回 魚津市教育委員会会議録

1 開催日時及び場所

平成27年7月6日（月）午後4時

第一分庁舎2階会議室

2 出席者

教育長 畠山 敏一

1 番 大野 聡一

2 番 潮 由加子

3 番 島津 豊

4 番 宮本 玲子

3 出席職員

次長兼教育総務課長 殿村 伸二 学校教育課長 宝田 哲

生涯学習・スポーツ課長 宮崎 悟 地域協働課長 吉崎 敏

こども課長 中山 明夫 学校給食センター所長 住田 賀津彦

図書館長 高山 茂樹 飼育研究係長 門田 信幸

教育総務課長代理 江田 直樹 学校教育係長 矢野 道宝

生涯学習・文化係長 藤田 晶子 スポーツ係長 小林 弘幸

教育総務課主任 明石 主計

4 傍聴人 なし

5 会議の要旨

午後4時、畠山教育長が開会を宣する。

(1) 前回会議録の承認

全員異議なく承認した。

(2) 報告事項

① 大町・村木・上野方・本江統合小学校校舎新築事業設計業務の選定結果及び今後のスケジュールについて

② 魚津市立図書館の行事予定（7～9月）について

③ 魚津水族博物館事業について

④ 清流小学校開校後の学童保育等について

(4) 議事

【統合校舎新築について】

宮本委員

地区説明会は1回だけか。各地区（学校）により思いは違うと思う。

江田教育総務課長代理

説明会については、4地区合同の形で1度予定している。児童を通じて保護者に案内するとともに地区住民には回覧板で周知することになっている。

大野委員

あまりお金をかけないで、リノベーションしながら古い校舎を使うことも考えられたが、全くの新築を行うことになったのか。

また、正面玄関からすぐに1、2年生の教室が配置されている。大阪で不審者による事件もあったので、少し心配である。

江田教育総務課長代理

設計段階で、外部からの侵入対策等を考慮したい。

校舎については、1棟が耐震性能がなく、残りの校舎も耐力度調査により危険との判定が出たため、このまま使えないとの判断のもと新築することとした。

島津委員

既存校舎は、何年ぐらい経っているのか。

江田教育総務課長

50年代に建設されているので、30数年になる。

島津委員

工事時の工事車両の経路、通学の経路、スーパーの経路等、車の往来が激しくなるので、子どもたちの安全対策をきちんと図らなければいけない。

江田教育総務課長代理

工事中の安全については、来年度、建設業者が決まった段階でしっかり計画を立てて対応していきたい。

潮委員

西部中学校に続き、本江小の方も新築となると、東部中学校、清流小学校ともに既存校舎のままであることから、後で、(東側地区の方から)不満が出ないだろうか。

江田教育総務課長代理

先程、申したとおり、本江小学校校舎は耐力度調査の結果、老朽化により危険な状態であるとの判定が出たが、吉島小学校校舎はまだ使える状態である。また、道下小学校校舎は先行して新築したという経過もある。

統合するからといって、すぐに新築するというわけにはいかないもので、こればかりはタイミングもあり、やがては東部中学校、清流小学校と相次いで新築という時期も来るかもしれない。

たまたま、東部と西部で偏りが出て、心苦しい面もあるが、使えるものは使えるというスタンスであることを地区の方にも理解していただきたい。

また、清流小学校について、校舎はそのまま使用するが、教室の床やロッカー、児童玄関の下足箱、傘たてなど来年度までに順次環境整備は行いたいと考えている。

潮委員

もう1点、今、14歳の挑戦をやっているが、子どもたちへのアフターフォローはどのようしているのか。せっかくの体験をどのように活かしているのか。

【14歳の挑戦について】

宝田学校教育課長

14歳の挑戦の振り返りの仕方については、学校に任せている状態であり、把握はしていないので、確認をしたい。

畠山教育長

東西の中学2年生がそれぞれ約50事業所に分かれて行っているが、学校からも手分けをして巡回しており、その時に生徒の様子を聞き、(必要に応じて)指導したり、褒めたりといったことをしながら、終わった後に自分たちの体験したことを報告書にまとめ、振り返りをしているはずだ。

【学童保育について】

大野委員

放課後児童についての提案になるが、民間の力をもっと導入したらどうか。例えば、商店街の空き店舗を活用して、元気な高齢者の方にボランティアとしてお願いするなど、新たな取り組みも模索すべきだ。

中山こども課長

学童用に新たな建物を建てるのは難しいと思うので、既存施設の中で対応できないか考えていきたい。ただ、指導員など資格の問題はある。一方で、民間の保育園の中で学童保育をできないかとの話もあり、将来的にはそのような面も含め考えていきたい。保育園であれば、保育園児と低学年の小学生の兄弟が同じところで預かってもらえるということにもなるので、今後、いろんな角度から考えていきたい。

【図書の利活用について】

潮委員

統合して閉校となる西布施、片貝小学校の本は、一度図書館に集められるのか。

宝田学校教育課長

学校の図書室に所蔵している図書については、それぞれの学校で清流小学校へもっていくもの、古くなって廃棄するもの、地区の施設に利用してもらうものを区分けし、整理しているところであり、図書館へもっていくということではない。

殿村次長

西布施小学校の跡は、コミュニティ施設となるので、学童の関係もあり、ある程度本が必要である。片貝小学校も同様と考えている。

潮委員

一般市民も借りられるのか。

宝田学校教育課長

残していく本の利活用の方法については、検討中である。

大野委員

電鉄魚津駅のホームに本棚をつくっていて、魚津図書館からいらなくなった廃棄本をもらい、自由に持って行ってもらっている。意外にすぐなくなるので、魚津駅にも本棚があればいいのではとの話をしている。もったいないのでそのような連携ができればよい。

高山図書館長

補足になるが、引越される方などが、図書館の方にリサイクルとして本を寄せられる。そ

の中で、一部は図書館に入れるが、それ以外の本は図書館の1階にリサイクル本として置いているし、大野委員が言われるように求めがあればお渡ししている。

畠山教育長

これから地域の活性化を考える中において、図書は大事な要素になっていく。

午後4時55分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。